科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	安藤　潤			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

現代の経済・社会：ジェンダー、家事労働、結婚を中心に

内容

教員の専門は経済学ですが、経済学と社会学のゼミにします。3 年次前半では、下記テキストを用い、特に「豊かな生活」「便利な生活」「ものづくり国・日本の象徴」ともいえる家電製品がこんなにまで改良され、価格も低下して家庭に普及したにもかかわらずなぜ妻の家事労働は減らなかったのかについて考えたいと思います。担当者には、テキストを批判的に読み、考察し、その上でレジュメを作成して報告してもらいます。司会進行もゼミ生に任せます。卒論執筆も念頭に入れ、簡単なアンケート調査、インタビュー調査をやってもらおうと考えています。

なお、前期中に卒論計画書を提出してもらいます。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

以下のテキストは必ず購入してください。

筒井淳也『仕事と家族　日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書，2015 年.

参考文献

川口章『ジェンダー経済格差』勁草書房，2008 年.
公益財団法人家計経済研究所『季刊　家計経済研究』各年各号.
佐藤博樹・永井暁子・三輪哲[編著]『結婚の壁　非婚・晩婚の構造』勁草書房，2010 年.
品田知美『家事と家族の日常生活　主婦はなぜ暇にならなかったのか』学文社，2007 年（2,000 円＋税）
治部れんげ『稼ぐ妻・育てる夫　夫婦の戦略的役割　アメリカ人 52 人のワーク・ライフ・バランス』勁草書房，2009 年.
橘木俊詔[編著]『現代女性の労働・結婚・子育て』ミネルヴァ書房，2005 年.
西村純子『ポスト育児期の女性と働き方　ワーク・ファミリー・バランスとストレス』慶應義塾大学出版会，2009 年.
松田茂樹『何が育児を支えるのか　中庸なネットワークの強さ』勁草書房，2008 年.
山田昌弘[編著]『「婚活」現象の社会学　日本の配偶者選択のいま』東洋経済新報社，2010 年.
その他、様々な研究所の論文集、レポートなどを考えています。

ゼミの進め方

担当者には、テキストを批判的に読み、考察し、その上でレジュメを作成して報告してもらいます。司会進行もゼミ生に任せます。

成績評価基準

報告・司会進行・質問・課題提出などゼミへの取り組み方全般とレポートで評価します。欠席は理由の如何を問わず 3 回までですが、無欠席が大原則です。

ゼミ選択上のアドバイス

すでに選択しているので特にありません。

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	臼井　陽一郎			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

ポピュリズムについて考える

内容

ヨーロッパ政治の現在をみつめながら、ポピュリズムについて考えてみたい。指定テキストの輪読をグループワークで進める。

なお、今年度はこのテーマで合同ゼミ合宿を実施する。合同ゼミ合宿は９月に神戸で、北海道大学・北海学園大学・立教大学・聖学院大学・東海大学・愛知県立大学・関西学院大学から参加者が集い、開催される予定。４年生がサポートしながら３年生が運営する（昨年は新潟の田上町で実施した）。

また適宜テキストを離れ、映像資料も使用しながら、グループワークを実施していく。

各回ゼミを終えるごとに、全員に、400 字のコメントメモを提出してもらう。文体を鍛えるのが目的であるが、問題意識の開拓も目指したい。半期全 12 回提出でゴールとする。
毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

水島治郎『ポピュリズムとは何か―民主主義の敵か、改革の希望か』（中公新書）
広岡裕児『EU 騒乱―テロと右傾化の次に来るもの』新潮社
（以上購入してもらいます）

ゼミの進め方

グループワークを中心に進めていく。グループは何度も組み替えていく。全員が全員と話ができる、そういうゼミにしていきたい。

成績評価基準

グループワーク（どのようなものであれチームの中でなんらかの貢献ができていたか）５０％＋毎回のコメントカード（授業で学んだことを毎回適切に記録しておくことができたかどうか）５０％

ゼミ選択上のアドバイス

飲み会や小旅行、合宿、他大学との合同ゼミなど、授業時間外の活動を授業の一環として積極的に実施していく。楽したい人は想い存分楽して好いと想う。でも、20 年後の後悔は激痛となってこころを襲う。問題意識の開拓は今しかできない。

その他

LINE グループで連絡し合うので、スマホでない人は PC で利用してもらうことになる。そのつもりでいてほしい。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	矢口　裕子			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

テクスト講読によるジェンダー／文学／文化批評

内容

文学研究の世界では、1980 年代後半以降、「ジェンダー・階級・民族性」という新たな視点を導入することにより、それまで埋もれていたり周縁的位置に追いやられていた作家・作品が発掘され、さらに、すでに正典（キャノン）として評価が確立しているかに見えた作品を読み直す作業が盛んに行われるようになった。また、そうした新たな批評の道具を映画・音楽等ポピュラーカルチャーの解読に応用する試みも活発である。

このゼミでは、そうした批評的視点から文学、映画、音楽、文化一般や時代を読み解くこと、最終的にはその成果としての卒業論文をまとめることを目標とする。

日本語のテキストと英語のテキストを両方取り上げる予定だが、場合によっては英語のみとする、翻訳のゼミにする等の選択肢もありえる。
毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

田嶋陽子『ヒロインはなぜ殺されるのか』講談社
舌津智之『どうにも止まらない歌謡曲』晶文社
Harry M. Benshoff and Sean Griffin, Gender and American Film , Eihosha.
Anais Nin, Linotte: The Diary of Anais Nin , Harcourt.

ゼミの進め方

レポーター制によりテクストの精読を行う。レポーターの仕事は、テクストの内容をまとめ、調べるべきことを（舐めるように）調べ、そのうえで自分の意見・疑問・論点を提示し、ゼミ内の議論を活性化させることである。むろんレポーター以外の学生もテクストを精読し、自分の意見を用意してゼミに臨むことが求められる。

成績評価基準

レポーターとしてのゼミへの貢献度、普段の発言等ゼミへ取り組む姿勢、随時課す少レポート、半期ごとに課す期末レポートの成果を総合的に判断する。

ゼミ選択上のアドバイス

読むこと、書くこと、考えることが好きな学生、様々な分野にアンテナを張り巡らせた、知的好奇心旺盛な学生を歓迎する。卒論を完成させる 4 年ゼミは、大学生活の集大成となる重要なものである。

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	越智　敏夫			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

政治思想と現代社会
あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」

内容

卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。

ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。

もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。

ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーという５人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。

しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないので、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。

こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいるかもしれません。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。

毎回の予習・復習に、合わせて４時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

たとえば、下記。具体的には学生と相談します。
ヴェーバー『職業としての学問』　岩波文庫
ヴェーバー『職業としての政治』　岩波文庫
ベンヤミン『複製技術時代の芸術』　晶文社
ベンヤミン『ドイツ悲哀劇の根源』　講談社文芸文庫
アレント　『全体主義の起原』　みすず書房
アレント　『暴力について』　みすず書房
丸山眞男　『現代政治の思想と行動』　未来社
丸山眞男　『日本の思想』　岩波新書
フーコー　『知への意志　性の歴史』　新潮社
フーコー　『監獄の誕生　監視と処罰』新潮社

ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という３者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

成績評価基準

出席を重視します。各セメスター２回までは欠席しても単位を出します。３回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い４年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

その他

合宿は夏期休業中に３・４年合同でおこないます。県内を予定しています。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	小山田　紀子			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

グローバル化と地域社会―中東・北アフリカ・ヨーロッパ・日本を中心に―

内容

●教員の研究テーマ：

マグレブ近現代史（マグレブとは、北西アフリカの西方アラブ圏諸国を指すアルジェリア・チュニジア・モロッコ三国 ）、アルジェリアの植民地史研究、フランス帝国主義研究、マグレブの脱植民地化の過程に関する比較研究、フランスのイスラーム系移民問題、日本における異文化理解（外国人、とくにムスリムとの交流など）

●内容（目的やねらい）

学生が 3 年次後半に決めた個別研究テーマに従って文献資料収集や現地調査、インタビューなどを進める。その際、先輩たちの卒業論文集を参考にしたり話を聞いたりする。テーマの決定と資料収集に当たっては教員と相談しながら進めていく。研究の進み具合によって順番に研究報告をし、他の学生からの質問や議論の中から示唆を得て研究をさらに豊かなものになるよう進めていく。最終的には各学生の個別研究テーマは、後期に卒論としてまとめることになる。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

各学生が個別研究のテーマで、教員と相談しながら参考文献資料を決めていく。

ゼミの進め方

４年次前期は、卒業研究に関して、教員の個別指導を中心に進める。参考にする文献資料の検索と収集を行い、入手した研究書・論文の読解を進め、ノートを作成して卒論の構想を練り上げていく。論文の構成に従って執筆を進めていく。

ゼミでは各自の研究の中間発表を順次行う。

成績評価基準

卒業研究に取り組む姿勢、卒論作成の進捗状況などにより総合的に評価する。

ゼミ選択上のアドバイス

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	神長　英輔			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

「わたしの世界史」を書く
---東北アジア地域・旧ソ連地域の歴史とわたし---

内容

東北アジア史・ロシア史と歴史学の方法について学びます。

ここでの東北アジア史とは、日本史、中国史、朝鮮・韓国史、ロシア史、
モンゴル史などを含みます。
また、これらの地域の文化史・文化研究も含みます。

授業では東北アジア史のとくに近現代に関する研究書を精読かつ多読します。

ロシア史を含む東北アジア史に関する体系的な専門知識と知的生産の技術を
身につけてください。

また、現代の東北アジア地域に暮らす自分が、上記の地域の歴史と
どのように関わっているのかを論理的に語り、体系的に記述できるように
なってください。

また、中級水準のロシア語文章を精読し、ロシア語作文も練習し、
ロシア語の高度な運用能力を身につけることをめざします。

人数によってはロシア語での簡単な発表と質疑応答も求めます。

基本的にはロシア語既修者の参加を想定していますが、
未習者も歓迎です。未習者が参加する場合は授業内容の一部を
変更します。

最終的には、広義の歴史学研究の発展に寄与できる卒業論文を書いてください。
授業ではたくさん読み、書き、話すことを期待しています。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

3 年ゼミではさしあたりの教科書として
・栗生沢猛夫『図説　ロシアの歴史』河出書房新社、2010 年
・松戸清裕『ソ連史』筑摩書房、2011
を読む予定ですが、参加者の希望に応じて本は変更します。

読む本の詳細は参加者と話して決めます。
基本的には旧ソ連地域と東北アジア地域の近現代史に
関係する本を読みます。

ロシア語の精読テキストはこちらで用意します。
ロシア語の作文テキストについては参加者と話し合って決めます。

ゼミの進め方

授業の内容は下記の 1・2・3・4 の通りです。

1. 研究書精読
研究書を読み進めます。
毎週、参加者全員が該当箇所を読み、事前に要旨を提出します。

当日はこちらが指示する問いにグループで話し合い、
答えを発表します。

問いと答えは各自で書きとめておき、次週までにまとめ、
ペーパー課題として提出します。
私がペーパーを添削して返却します。

2. 中級ロシア語精読
外国人のロシア語学習者向けの教科書
『Читаем о России по-русски』
を読みます。
全員の毎回予習が前提です。
（ロシア語履修者の参加を前提としています）

3. ロシア語中級作文
米川正夫ほか『ロシヤ語作文の基礎』（白水社）を使って作文の練習をします。
ロシア語 20 文程度の作文の予習が前提です。

4. 発表

3 年ゼミ・4 年ゼミともに卒業論文の進捗状況を月 1 回の頻度で報告し、
4 年ゼミでは定期的に卒業論文の原稿を提出してもらいます。

連絡はメールでおこないます。
指示に従い、期限までに自分のメールアドレスを所定のメーリングリストに
登録してください。

参加者には交代で毎回の授業内容をメーリングリスト宛てに
報告してもらいます。

なお、参加者の人数等に応じて上記の内容を多少変更することがあります。

成績評価基準

授業の参加度と課題の提出状況をもとに評価します。
欠席の多い方、課題提出を怠った方の単位は認めません。

やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

ゼミ選択上のアドバイス

ロシア語既修者の参加を前提としていますが、
ロシア語未習者の方も歓迎します。

ロシア語未習者の方が参加する場合は、授業内容の一部
（ロシア語に関係する部分）を変更します。

参加者に求めるものは主体性と積極性です。

毎週の課題が多いため，予習と復習にはかなりの時間が必要になります。
本を読むのが嫌いな方、文章を書くのが嫌いな方はおすすめできません。

また、学生としての最低限の約束事（必要な連絡や期限など）を
守れない方はご遠慮ください。

旧ソ連地域と東北アジア地域の歴史と文化に関心があり、
情熱を持って学びたい人のための授業です。

学問もスポーツや芸術と同じです。
徹底した基礎訓練の蓄積の上に創造性が開花します。
いっしょに本気で学びましょう。

その他

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	熊谷　卓			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

現代社会を生き抜く-国際法という視点から-

内容

１　ゼミの内容

　戦争、貧困、環境保護、移民、宗教対立、国際テロなど、我々の生きる現代社会は地球規模の様々な問題を抱えています。本ゼミナールにおいては、いかにしてこれらの問題を理解し、その原因をあきらかにし、対処のしかたを 考えるか、これまでに試みられた様々な議論を参照しつつ、ゼミナール構成員と共に考えてみたいと思います。

　なお、上に見たような問題について考える場合、本ゼミナールにおいては、指導教員の専攻分野である（国際）法を分析の手段として用いることを基本においています。比喩を用いていえば、今まさに解決を求められる諸問題について、自分が弁護士だったらどう訴訟するか、検察官だったらどう有罪を勝ち取るか、あるいは裁判官だったらどのような判決を下すべきかといった多様な視点から、取り組むことを目的とします。

　もっとも、問題の性質によっては、法学的な視点にとどまらず、政治、社会学的、歴史的なアプローチも加味しながら、考察を行います。　以上のような作業をコツコツとでも、しっかり行うことで、「現代社会を生き抜く」（強い社会人となる）ための術(すべ)がゼミナール構成員に伝承されるものと信じています。

　なお、法について苦手意識があっても、強いやる気があれば、大丈夫です。ご安心ください。

　ただし、かなりのハードワークを求めますし、英語を読むこともあります。この点を留意してください。

２　教員の現在の関心

　21 世紀の国際社会が解決を求められる国際テロリズムについて、国際法からどのような対処ができるか、研究をしています。

３　これまでの卒業論文のタイトル例(ごく一部です。見れば分かるように、「法」に関するものばかりではありません!)

　多国籍企業の社会的責任について、集団的安全保障体制の課題-ケーススタディーを中心に-、国際人道法はなぜ守られないのか-アメリカによる対テロ戦争（war on terror）を中心に-、裁判員制度が及ぼす国内司法制度への影響、公共交通の課題-新潟市の事例を中心に-、日本の小学校英語教育について-韓国との比較を中心に-、日本の学校教育における児童・生徒の人権一体罰問題の解決に向
けて一

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

水上編著『国際法』(2002 年、不磨書房)
阿部浩巳『国際人権の地平』(2002 年、信山社)

なお、判例(裁判の判決)を読むこともあります。

ゼミの進め方

テーマごとに使用するテキストや資料をゼミナール構成員全員で考察します。その際、報告者が中心的な研究発表を行いますが、その他の構成員もそれに対する質疑という形で主体的に参加してもらいます。

成績評価基準

ゼミ報告やレポート（50 パーセント)、あるいはゼミへの参加度（50 パーセント）を総合的に判断し、成績を付けます。

ゼミ選択上のアドバイス

「ゼミ選択上のアドバイス」の続き

個人的な経験をいえば、大学・大学院のゼミで指導いただいた 2 人の先生なくして、現在のわたしは絶対に存在していません。「3.4 年ゼミ」はそれぐらい重要なものと思っています(本ゼミの卒業生でも大学院で研究を継続している人も居ます)。ですので、十分に検討してゼミを選んで欲しいと思います。

その他

以下、 参考までにまとめとして(繰り返しも含め)。

(1) 熊谷ゼミの分析視覚は?→法学的思考(社会科学的思考の 1 つ)です。もっとも、広く他の学問分野のアプローチも取り込みます。卒論のテーマも結果的に多彩です。

(2) 熊谷ゼミの地理的フィールドは?→限定しません(フランス法も個人的には勉強してきました)。

(3) ゼミ合宿は?→これまで日光、会津、村上、新発田、咲花温泉、群馬、伊香保、越後湯沢等で実施してきました。

(4) (国際)社会の動向に何らかの意味で関心を持っている人に勧めます。

(5) 「3.4 年ゼミ」は 4 年間の学業の集大成であると共に卒業後の人生にも関わります。

ですので、「絶対頑張ります!」という人にこのゼミナールを勧めます。

どうぞよろしくお願いします。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	山田　裕史			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

国際協力研究

内容

　紛争と平和構築、貧困と開発（保健医療、教育、インフラ）、人道支援などの分野の国際協力に関する研究を中心に行います。対象地域は主に東南アジアが中心ですが、それ以外の地域であっても、国際協力分野に関する研究を希望する学生は歓迎します。

　履修者は、テキストの講読を通じて上記テーマに関する専門的な知識を身に付けるとともに、卒業論文の研究テーマに関する文献・資料調査を進めます。

　希望者がいれば、カンボジアをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

履修者の研究分野と関心にもとづきテキストを選定するほか、各自のリサーチ課題に応じたテキストを紹介します。

また、以下のテキストを用いて、卒業論文執筆に必要な学術的な技法を学びます。

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術―プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010 年

ゼミの進め方

履修者の研究分野や関心にもとづきテキストを選定し、(1) テキストの講読、報告と討論、(2) 各自の研究テーマ設定に関する報告と討論、を組み合わせて行います。

成績評価基準

(1) 出席、(2) テキストおよび各自の研究テーマ設定に関する報告と討論の内容、をもとに総合的に評価します。

報告内容に関するコメントやレジュメの添削などによるフィードバックを行います。

ゼミ選択上のアドバイス

国際協力に関する専門的なテキストも講読するため、後期開講科目の「国際協力論」を 3 年次に履修することを強く勧めます。

「国際協力」または「東南アジア」に関する知識を深めることはもちろん、「学術論文の書き方もしっかり身に付けたい」という学生の履修を歓迎します。

その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	佐々木　寛			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

平和のための地球政治学――新しい＜文明＞を求めて

内容

当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかり知的につかまえなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおのおのが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまに展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策、新しい生き方や＜文明＞のあり方をともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やＮＧＯで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でＮＧＯを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。

最終的に各自ゼミ論文（３年次）、および卒業論文（４年次）の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じて調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、海外に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館（ドイツでは「アウシュヴィッツ」、韓国では「ナヌムの家」）などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。

当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

◎Ｈ.アレント『暴力について』みすず書房
◎Ａ.ギデンズ『近代とはいかなる時代か？』而立書房
◎Ｕ.ベック『危険社会』法政大学出版局
◎Ａ.メルッチ『現代に生きる遊牧民』岩波書店
◎Ｅ.サイード『知識人とはなにか』平凡社
◎Ｐ.ブルデュー『メディア批判』藤原書店
◎日本平和学会編『「3・11」後の平和学』早稲田大学出版部 など。
ーー他に必要に応じて英語文献も読みます。

ゼミの進め方

ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。

成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度　＋　レポートの出来。

ゼミ選択上のアドバイス

能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていこうとする気概をもった学生、また、大学生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。

その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	澤口　晋一			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

自分の脚を使って，観て，考えるゼミ.

内容

以下の分野からテーマを決め，関連文献をできるだけ多く読むことで，自己の課題を決定し，調査地（あるいは調査項目）選定まで行う.

・地理学分野
　自然地理学：地形学（高山・山岳，段丘，変動（活断層）地形，沖積平野等）
　第四紀学（古環境変動）
　気候学（小気候・微気候，気候景観，ヒートアイランド等）
　地生態学・景観生態学（植生，自然景観保全，ビオトープ）
　人文地理学：土地利用（景観変遷），食糧問題，地域研究，観光地理学，地誌学
・地球環境問題分野：地球温暖化問題，酸性雨，砂漠化，生物多様性 等
・地域環境問題分野：地域環境保全，ゴミ問題，森林保全 等
・資源・エネルギー分野：資源枯渇，自然エネルギー，原子力発電に関る問題（と核問題）等

毎回の予習・復習に，合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます.

使用予定テキスト

なし

ゼミの進め方

前期は個々のテーマに関係する論文（専門誌掲載論文）を 5 本以上読む.
夏休みは卒論の調査を行う.

成績評価基準

ゼミへの取り組み姿勢

ゼミ選択上のアドバイス

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	小林　伊織			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

World Englishes seminar for juniors/seniors
Undergraduate thesis on World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF), and sociolinguistics

内容

There are more non-native speakers of English in the world today than there are native speakers. Asia is the region with the largest number of English speakers in the world. This means that the learner in Japan is more likely to use English with other non-native speakers, particularly those from Asia, than with native speakers.

There is no single standard variety of English in the world. The spread of English around the world meant that many different varieties of English developed in various locations. It did not mean that British English or American English was transplanted in different locations as it was.

English is an Asian language. Japan being a part of Asia, it is also a Japanese language. When a Chinese, a Japanese, a Korean and a Russian talk to each other in English, each one speaks his/her own variety of English. Here, what is considered to be correct or incorrect in American English is irrelevant as long as they can understand each other's English. The learner from Niigata should be able to use English as his/her own tool to express the cultures and thoughts of Niigata to people around Asia and all over the world.

In the Kobayashi seminar, we first look at the framework and key concepts of World Englishes. Then we explore selected varieties of world Englishes, such as Philippine English, Singapore English, Indian English and West African English. Finally, we consider the implications of the emergences of new Englishes on English language teaching and learning.

The seminar requires 4 hours of self-study per session. This time should be spent doing pre-seminar reading as well as presentation and essay preparations.

使用予定テキスト

Honna, N., Takeshita Y. & D'Angelo, J. (2012). Understanding English across Cultures. Tokyo: Kinseido.

Honna, N. & Takeshita, Y. (2009). Understanding Asia. Tokyo: Cengage.

本名信行 (2006) 英語はアジアを結ぶ　玉川大学出版部

Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students. Oxon: Routledge.

Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge: Cambridge University Press.

ゼミの進め方

1. Pre-class reading
2. Short introductory lecture
3. Small group discussion
4. Student presentation

成績評価基準

20% Attendance
20% Participation
20% Presentation
40% Essay
(For the undergraduate thesis, the grade will consist of the thesis and oral defense.)

Before, during and after the semester, you will receive feedback about your performance in the seminar through face-to-face and written methods.

ゼミ選択上のアドバイス

It is recommended to join the Kobayashi seminar if you plan to write an undergraduate thesis in English about topics related to World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF) and sociolinguistics.

その他

Other details of the seminar will be announced in the first meeting.

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	アレクサンドル　プラーソル			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

ロシア社会・文化の歴史と現代、日露文化比較研究。

内容

生徒にゼミテーマに沿っての分野を選んでもらって、信頼できる参考文献の選択、研究方法、アプローチ、卒業論文の書き方等の指導を行う。
毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

テキストを利用しない。
ゼミ生各々が興味のあるテーマを調べてもらう。
教員が適切な研究や参考文献を勧める。

ゼミの進め方

ゼミ生に各々興味のあるテーマを選んでもらって授業を進める。それぞれ違うテーマの発表論争に参加することによって生徒の知識を深めることを目指す。人数によって、発表は毎週か隔週かになる。発表しないときは他人の発表を聞いて論争に参加しなければならない（質問、疑問、コメントも可)。調べてきた資料は卒論研究の基礎をなすので、徹底的に進まなければならない。

成績評価基準

出席率（６６%以上が必要)、発表や発言の質、他人の発表論争の参加によって成績を評価する。

レポートや発表のフィッドバックとして特に優秀な答案を公表し、全般的な講評を行う。

ゼミ選択上のアドバイス

なるべく早く興味のあるテーマを選択することが重要である。発表準備中の不明な点について質問を書き留めて授業中に担当教員に説明してもらうようにしよう。

その他

ゼミ研究の課題は下記の通りである。

グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体の問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。

異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること。

日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方途をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	藤本　直生			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

英語による社会言語学および談話分析　Sociolinguistics & Discourse Analysis in English

内容

「ことばを話す」ことは、私たちが生活する上でとても大切な能力です。私たちは母語である日本語を無意識に話しているように思いますが、場所や状況に合わせて適切に使っています。また、ことばは生きていて、絶えず変化しています。社会言語学とは、このようなことばの変化に焦点を当てた学問です。本ゼミでは、3 年次の国際研究ゼミナール３，４で学んだ次の１０の観点からなる社会言語学の基本的なコンセプトをもとに、談話分析の研究手法も加えて学びます。

1. Gender　男女によることばの差
2. Age　年齢差によることばの違い
3. Ethnicity　人種・民族による言語差
4. Social class and regional differences　社会階級と地域による言語の違い
5. Language and culture　言語と文化
6. Forms of address　呼びかけ表現
7. Politeness　ことばによる丁寧表現
8. Image and association　イメージと連想
9. Speech acts and discourse　スピーチアクトとディスコース
10. Nonverbal language　非言語伝達

さらに、データとして各自映画やテレビ番組の一場面、あるいは友達や家族との会話を録音してテープ起こしをし、談話分析の研究手法に従って分析を行います。

なお、英語で卒業論文を書くための基礎を養うために、Extensive Reading（略して ER、多読）も並行して行います。ER では図書館にある Graded Readers の中から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進めます。
毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

『An Invitation to Sociolinguistics 社会言語学への招待－社会・文化・コミュニケーション』
田中春美＆田中幸子編著、ミネルヴァ書房
『タテ社会の人間関係－単一社会の理論』中根千枝著、講談社現代新書
『「甘え」の構造』土居健郎著、弘文堂
『表と裏』土居健郎著、弘文堂
『めざせ！100 万語　読書記録手帳』SSS 英語学習法研究会著、コスモピア株式会社
その他、プリント教材を使用するため、それを綴じるためのファイルを各自で購入すること

ゼミの進め方

各自で収集したデータをもとに、ペアやグループでディスカッションしながら進めます。

成績評価基準

授業態度・授業への参加　３０％、ＥＲ　２０％、卒業論文の準備と進み具合　５０％

ゼミ選択上のアドバイス

ことばやさまざまな言語に関心があり、英語で社会言語学と談話分析に関する卒業論文を書き上げたいと考えている学生の皆さんは、藤本ゼミを受講して下さい。

その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	申　銀珠			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

韓国・朝鮮と日本

内容

国際研究ゼミナール３，４で学習した内容を踏まえながら日本と韓国・朝鮮関連の様々なテーマを勉強し、具体的な自分の研究テーマについて発表してもらいます。時事問題なども積極的に取り上げながら常に自分と社会の関連性を意識し、理解を深めていきたいと思います。
毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

ゼミ生の発表内容に応じて参考文献等を紹介し関連分野の理解を深めていくようにしたい

ゼミの進め方

発表者の発表内容を事前に知らせ、関連分野について事前に学習して臨むようにしたい。発表者、司会、コメンテーターを決めておいて毎回の発表と討論が活発に行われるようにしたい。

成績評価基準

主に学期末のレポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表内容、発言等を評価に加える

ゼミ選択上のアドバイス

その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	佐藤　若菜			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

人、モノ、社会のネットワークから理解する世界

内容

３年次に決定した卒業論文のテーマに沿って、文献・資料収集や聞き取り調査等を行う。定期的に調査・研究の進捗状況を報告し、論文の草稿を提出する。適宜、フィールドワークや論文執筆に関する指導も行う。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

各学生の卒業論文のテーマを踏まえて指示する。

ゼミの進め方

順番に卒業論文の進捗状況を報告し、ゼミのメンバーで議論する。執筆した草稿に対しては、個別に指導する。

成績評価基準

ゼミでの報告内容、卒業論文の執筆内容と進捗状況、出席状況等により総合的に評価する。

ゼミ選択上のアドバイス

特になし

その他

特になし

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	區　建英			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

「現地の視点を導入した中国研究」

内容

このゼミの特色は外国を研究する時、現地の視点を導入する方法を重視するところにあります。外国研究において、対象国の言葉で理解することがとても重要です。また、私たちはふだん無意識のうちに、自分の生活環境やマスコミによって「与えられた」画一的な見解を持たせられがちです。これも国際理解を妨げる要因です。したがって、中国という異文化を研究するには、日本語文献のみに頼るばかりではなく、できるだけ直接中国語文献を読むよう勧めます。
このゼミは、主に中国語の文献や映像を資料として理解したり討論したりしますので、留学済の学生に留学経験を保ち、未留学の学生に留学のような授業を少しでも体験することができます。ただし、語学の授業ではなく、研究の中で中国語を用い、よって中国語の使用能力を高めるのです。もちろん、日本語の中国研究成果も重視します。日本の視点による中国へのトータルな理解、あるいは各分野の中国理解を検討し、中国の視点から比較することも考えられます。要するに、多様かつ国際的な視点を通して、学生自身の見解を立ててもらいたいです。
研究テーマは私の研究内容に縛られず、なるべく学生諸君の個性を自由に伸ばしてそれぞれの関心を学問に組み込みます。国際研究としては、中国を具体例としながら、中国そのものを知ることに限らず、中国を通じて日本を見、アジアを見、世界的な問題への理解も目指すことができます。分野については、政治、経済、文化、国際関係などの問題ばかりでなく、民族の具体的な生活習俗に関する研究も可能です。むろん、皆様により身近な、新潟の実践的課題に根付いて考えることもできます。要するに、学生はそれぞれ自分の関心から研究テーマを選び、私はそれに応じて研究方法を指導します。
毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

主に、中国人によって書かれた中国語文献、あるいは他国の人に書かれて世界に注目される中国語文献
中国の成語故事も導入

ゼミの進め方

具体的に、中国人によって書かれた中国語文献、あるいは他国の人に書かれて世界に注目される中国語文献を、学生諸君に輪読し輪訳してもらい、また、私から訳を教え、必要に応じて説明し、皆で討論します。中国語による研究の能力を身に付けながら、視野を広げて自分の真の関心を見つけ、卒業研究へと発展します。３年次は主として、中国語による研究の技能を学び、自分の関心がもてる課題を見つけ、学術研究の基本的方法を学び、卒業研究の基礎をととのえていきます。４年次は自分の課題に基づいて研究を進め、１つの成果にまとめるよう指導します。

成績評価基準

ゼミの出席と輪読や討論の状況に基づきます。

ゼミ選択上のアドバイス

このゼミは語学の授業ではありませんが、一定程度の中国語の修得を前提にして、中国語を研究に使います。中国語使用能力の訓練を受け、その能力を駆使して研究を行いたい学生が望ましいです。したがって、ゼミに入るために下記の「条件」を設けています。
中国語履修者であること、中国語文献の読解や中国語使用の訓練に意欲あること。

その他

私の関心は一貫して、現代中国が抱えている民主化の問題と多民族社会の問題にあります。同時に、グローバル化と中国の経済発展および日中関係における諸問題にも注目しています。ただし、ゼミの研究は私の関心と研究テーマに縛られず、主に学生の関心に基づきます。
これまでの卒論テーマ（例）
１、戦後の日中民間友好交流　　２、日中友好協力と新潟県人の活躍
３、中国における日本の漫画とアニメ　　４、中国の民族文化と生活習俗
５、中国大学生の就職問題　　６、中国の環境問題と NGO 動
７、中国の経済格差の問題　　８、中国大陸と台湾の関係

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310007	XZY310007	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール５	瀬戸　裕之			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

南北問題、開発途上国、東南アジアにおける国際関係・国際紛争

内容

現在の国際社会では、グローバル化が進展し、国境を超えたヒト・カネ・情報の交流が盛んになっています。第二次世界大戦後、かつて植民地として支配されていたアジア、アフリカ、ラテンアメリカの多くの地域が独立し、経済発展を目指してきました。1960 年代、1970 年代における国際経済秩序をめぐる先進国（北）と開発途上国（南）の対立を経て、1980 年代以降になると、アジア NIES と呼ばれる一部の開発途上国が経済発展に成功する一方で、多くの途上国が、累積債務問題、環境問題、民族紛争に直面し、グローバル化の中で発展の方法を模索しています。

本ゼミでは、グローバル化が進展する中で、開発途上国が直面している課題について考えます。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

ゼミにおいて、基本文献を紹介します。

ゼミの進め方

ゼミで紹介した基本文献に基づいて、ゼミを履修する学生が、担当する章、文献に従ってレジュメを作成し、ゼミの中で報告します。報告に基づいて、学生と教員の間でディスカッションをします。

成績評価基準

ゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1) ゼミへの出席と授業態度（25%)、(2) 担当した発表内容と取り組みへの姿勢（50%)、(3) ゼミでのディスカッションへの参加（25%）に基づいて、成績を出します。

ゼミ選択上のアドバイス

本ゼミを選択する学生は、南北問題、開発途上国、東南アジアの国際関係・国際紛争について関心を持っていることが望まれます。できれば、大学の講義科目で「南北問題」を受講していることが望まれます。

その他

本ゼミを受講する学生は、前期中に卒業論文計画書を作成し、提出してもらいます。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習